

KUMADAI TSUSHIN

Vol.20 Apr.2006

熊大通信

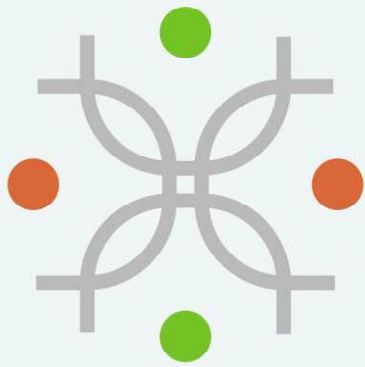
特集

生命原理の解明から疾患治癒へ
生命の本質を究める



Kumamoto University

国立大学法人 熊本大学



Upgrade Unique Union Universal
KU4U

熊本大学の約束(KU4U)

Kumamoto University For You

私たちは、熊本大学を開かれた心地よい環境の大学として、次の4つのことに全力を投入します。

Upgrade

未来を生き抜くプロフェッショナルの養成

Union

地域連携と社会貢献

Unique

新たな知的価値の創造

Universal

留学生教育と国際貢献

C O N T E N T S

1 学長挨拶

唯一生き残るものは 変化できるものである

4 熊本大学長 崎元 達郎

5 知と社会 Vol.20

生命原理の解明から疾患治癒へ 生命の本質を究める

9 ー発生医学と再生医療の最先端ー

10 夢の実現 Act.8

真の日本歴史を求め、 “時の旅”を究める

11 熊本大学文学部教授 木下 尚子

12 熊大群像

大学の“ステーション”的な存在に

13 熊本大学広告研究部「KumAnd(くまんど)」

14 卒業生を訪ねて

「カッコいいクルマをつくりたい」

ー「創」と「造」の両方に携わるエンジニアの誇りと喜びー

15 マツダ(株)プログラム開発推進室所属・主査 川崎 俊介さん

16 国際交流

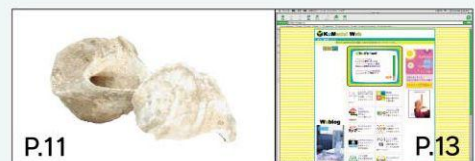
国際交流協定校紹介 ーニュージーランド・マッセー大学ー

17 欧米地域とは違う英語圏の魅力
～全世界の若者が集う学園都市で学ぶ～

18 熊大INFORMATION

お薦めの一冊 熊本大学医学薬学研究部 教授 谷原 秀信

21 熊本新哲学の道 KumAnd代表 文学研究科2年生 中嶋 积光



表紙／私の居場所

(木版画・リトグラフ675×715mm) 1995

作／川田 なな

作者プロフィール／(1975-2001年)熊本県天水町生まれ。大胆なデフォルメと繊細な色使いが魅力の画家。学生時代に全国大学版画展で優秀賞を受賞するなど、将来を囑望されていました。本人が好きだった実家のみかん山に「なな、みかんギャラリー」がオープン。

唯一生き残るものは 変化できるものである

熊本大学長 崎元 達郎

本年度は法人化3年目、すなわち、第1期中期目標計画期間(6年)の中盤に入り正念場を迎えます。法人化後2年間、なすべき改革を進めて来ましたが、まだ多くの課題もあります。昨年度の取組みを振り返りつつ、今後の大学発展の施策と課題についてお伝えします。



Kumamoto University



唯一生き残るものは
変化できるものである

「最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるのではない。唯一生き残るものは、変化できるものである」。ダーウィンのこの言葉の妥当性は、迅速に変化して活力を持ち続ける企業や、変化できずに突然死又は経営困難に陥る企業がある状況を見れば明らかですが、大学という組織に対しても真実味を持って迫って来ています。法人化以来、熊本大学にも必要な変化が求められており、この2年間、なすべき改革を進めて来ていますが、まだまだ多くの課題も残されています。

まず、この4月からの教育研究組織の新設、改組について言えば、社会文化科学研究科に設置したeラーニングプログラムフェッショナルを養成する「教授システム学」専攻(修士課程)、薬剤師養成のための薬学部薬学科(6年制)と創薬開発人材を養成する創薬・生命科学科(4年制)と創薬研究センター、COEや拠点研究と連携した3つの先端融合講座を持つ新専攻を核とする自然科学研究科の大学院重点化、そして、工

学部5学科から7学科への改組が挙げられます。いずれも構成員の努力と英知を集めた新組織の誕生であり、円滑に軌道に乗せることと目指す成果をあげられるように関係部局と共に努力を継続せねばなりません。

組織に関する今後の課題としては、「教職大学院」の設置計画と社会文化科学研究科(社文研)の前期・後期区分制大学院としての整備充実があります。既に法学研究科、文学研究科を廃止し、社文研の前期課程とする改組素案が3部局から提案されていますが、教

職大学院との関係で教育研究科の見直しも課題となります。この意味では、本学の将来構想である「人と社会」すなわち人文社会系の大学院の再編充実を具体化する時が来たと考えています。



平成18年度 熊本大学理事・副学長



森 光昭
理事(人事・労務担当)



平山 忠一
理事(目標・計画・評価・情報・広報担当)
副学長



小野 友道
理事(研究・大学改革・社会貢献担当)
副学長



西山 忠男
理事(教育・学生担当)
副学長

法学系、文学系教員との連携協力のもとにシナジー効果を発揮し、教科専門を充実させると同時に、アカデミズムとエンプロイアビリティを備えた新たな専攻群を創るという方向性を追求すべきであると考えています。改組後の社文研では、文学、教育学、法学、学術等の修士号を有する高度専門職業人を養成し、さらに、現行の博士課程に加えて教育学博士等をも実現する道を指向すべきと考えています。いずれにしても今後の教育の課題と生き残り策は、大学院教育の実質化と質保証であること念頭に置き、関係部局との

十分な議論を尽くし、10年以上先を見越した立派な改組案を作成し、実現して行きたいと考えており、この為に担当の副学長を任命したところで

大学をとりまく科学技術政策環境も変わりつつあります。まず、今年度は第3期科学技術基本計画(5ヶ年)の初年度となっており、これに基づく科学技術推進事業や国立大学の施設整備5ヶ年計画も策定されます。事業は、例えば科

学技術振興調整費等の形で具体化され、資金として投下され、獲得は厳しい競争となります。事業プログラムには、研究指向のものと施策誘導を目的とする改革指向のものがあり、後者に属するものとして、「助教」等の教員組織新設に対応したテナントラック制の導入に関するもの、男女共同参画に関するもの等があり、本学も応募したところです。特に、今回の男女共同参画プログラムは、女性研究者の育成を目的としており、保育施設等の整備充実が課題となります。

大学独自の取組みとしては、まず、五高記念館を、数年かけて熊本大学博物館として整備し、準博物館としての登録を申請します。本学の学生の学芸員資格取得のための実習を行えるようにすると同時に、平日開館を実現し、市民や修学旅行の中学生、高校生にも訪れていただけるようにしたいと考えています。

また、昨年の上海フォーラムの実施、上海オフィスの設置に続く熊本大学の環黄海(東ア

ジア)連携・協力の戦略の一環として、熊本大学フォーラム in KOREAを6月に開催します。

事務職員の人事面では、法人化以降、大学独自の人事が可能となりましたので、現在、課長職については学内の人々をも登用していますが、今後は部長職についても道を開くつもりであります。独自の人事という点では、広報室に民間の広告会社より広報戦略担当専門職を採用いたしました。キャリア支援課長、国際戦略室長に続き3人目の民間からの採用です。ユニバーシティアイデンティティの確立と広報戦略を担当いただいています。昨年度のロゴマーク策定にも参加いただき、本誌に紹介しています。熊本大学の新しいロゴマークを決定しました。伝統のイチヨウの校章と共に、前進する熊本大学を象徴するロゴマークとして使って行きたいと考えています。

平成18年度予算については、昨年度比約28億円増ですが、そ



倉津純一
副学長(病院経営担当)(新設)
附属病院長



足立啓二
副学長(教育研究組織再編担当)(新設)



野口敏夫
理事(法務担当)(非常勤)



佐藤 隆
理事(財務・施設担当)
事務局長

唯一生き残るものは 変化できるものである



4月に開館した放送大学との合築による附属図書館の南棟

の内訳は、施設費補助金、借入金、借入金償還経費での約24億円と、病院収入、外部資金等の自己努力による増収見込約4億円となっていますが、事業費ベースでは実質減となります。すなわち、eラーニングに関する特別教育研究経費が新規に認められたのみで、効率化減1%の物件費分と学生の休退学数増による運営費交付金減(合わせて約1.2億円)の影響で、学部等への直接配分は昨年度比約3%減となります。病院の経営改善については、病院長のリーダーシップのもと努力が重ねられ、少

しずつ見通しのつく状況になってきています。中央診療棟の設備費がほぼ満額措置されたことから、この6月の中診療棟の完成でさらなる効率的な運営が期待されます。なお、大学における病院経営の重要性に鑑み、病院長を副学長といたしました。同時に医師、研修医、コメディカル職員を含む若手人材の確保・育成の為の処遇改善にも努めたいと考えています。

施設整備としては、放送大学との合築による附属図書館の増築部分(南棟)が完成し、この4月に開館しました。放送大学共々、活用いただきたいと思っております。また、旧発生源の建物の改修にも補正予算が措置されましたので、保健学科の学年進行と大学院設置に対応する整備を進めることができます。今後の施設設備としては、東病棟、医学部図書講義棟、社文研棟の新設、文・教育・法棟や附属学校の耐震改修等が懸案事項ですが、次期の施設整備5ヶ年計画のテーマである「人材育成のための老朽建造物の再生」に合致する

ようにソフト(教育内容改革や組織の改組)の計画と同期させて予算獲得の可能性を高める必要があります。

国に準じた給与の制約(人事院勧告対応)や、今年度より5年間で5%の人件費削減等、厳しい条件が付加されつつありますが、逆境にめげずに、構成員一人ひとりの努力により活動のための資金をつくり出さなければなりません。この意味では、組織としても「熊本大学基金」を創設し、種々の活動を支えるファンディング事業の展開にも力を入れたいと考えています。ファンド形成については、いずれ御支援をお願いすることになります。その節は御理解と御協力をいただきたいと思います。

熊本大学は、世界水準の教育と人材養成を着実に進め、国際的にも存在感を示し得る教育・研究・医療により社会に貢献し続けます。法人化3年目を迎えるにあたって、学内外の皆様の御理解と、さらなる御支援をお願いします。

本学運営の基本方針

- ① 学問の自由、大学の自治の理念を踏まえた自主性、自律性、公明性の確保
- ② 教育研究の長期性や社会と大学の持続的発展の視点の重視
- ③ 「将来像」、「目標・計画」の堅持と確実な実現
- ④ 構成員の創意と構成員間のビジョン・目標・情報の共有に基づく戦略的トップマネジメントと教員・職員の一体的協働
- ⑤ 学生とその活動の尊重と手厚い支援
- ⑥ 教育の機会均等、基礎研究、先端医療、地域医療など競争や経営になじまない部分の重視と堅守
- ⑦ 教職員の意識、意欲、能力、豊かな人間性、夢を醸成する条件整備

生命原理の解明から疾患治療へ 生命の本質を究める — 発生医学と再生医療の最先端 —

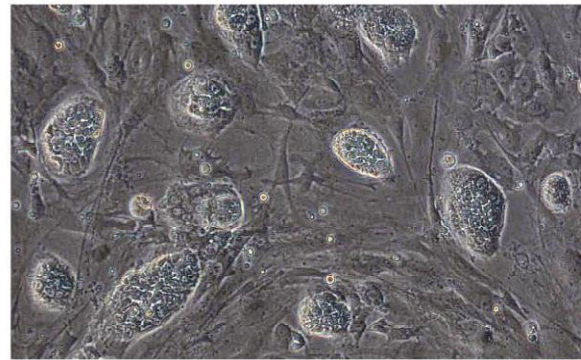
複雑なヒトの身体も、もとをたどればたった一個の受精卵から始まる。この一見、神秘的な発生現象にも、正確なルールが存在する。そのルールを調べ、受精卵がヒトの身体の各器官や組織になつていくための仕組みを解き明かすのが「発生学」。それを応用して、病気で失われた人の器官や組織の修復と復元を目指すのが「再生医学」である。こつした医科学分野の研究を進めることにより、不治の病と呼ばれるさまざまな病気に苦しむ人々に、治療への道を開く「生命科学と医学」の現場が、熊本大学発生医学研究センターである。

ヒトES細胞研究が
もたらす難病治療への
大きな一歩

2005年11月、熊本大学発生医学研究センター(以下、発生研)新たな教育研究の拠点施設が、医学部の本荘キャンパス内に完成した。生命科学と医学研究の最先端を走る12人の研究者が集まるこのセンターは、「発生医学」の名を持つ国内唯一の研究施設。京都大学の再生医学研究所、神戸にある独立行政法人の理化学研究所発生・再生科学総合研究センターと連携し、日本の三大研究拠点の一つとして、発生・再生医学研究を担っている。



糸 昭苑 教授



ヒトES細胞

胞)を使った基礎研究を開始するという記事が、新聞各紙を飾った。研究グループの1つを率いるのが、幹細胞制御分野の糸昭苑(くめし ようえん)教授である。

糸教授は、体のさまざまな部分に変化できるES細胞の多能性に着目し、膵臓の発生・分化と再生に関する研究を行っている。

膵臓には、「β細胞」と呼ばれ、血糖値をコントロールするインスリンを作り出す細胞がある。糸教授はマウスES細胞培養を用いた研究から、その培養技術の糸口をつかんでいる。しかし、ES細胞が分化する過程を遡って見ると、マウスとヒトでは違いがある可能性がある。マウスの結果を応用して、ヒト特有の仕組みを見つけ、β細胞分化の道筋を明らかにし、新しい治療法を開発、大きな一歩を踏み

出すことになる。

「ヒトES細胞は分化のスピードがマウスより遅く、実験は容易ではありませんが、解明できるはずですよ」と糸教授は語る。研究は5年を予定。当面はヒトのβ細胞発生分化の仕組みを探りつつ、糖尿病の新しい治療確立というゴールを目指す。

臓器発生の
メカニズム解明から
いつかは、腎臓再生へ

臓器が機能せず苦しむのは、膵臓ばかりではない。腎臓病を患い人工透析を必要とする人は、日本国内で20万人を超える。腎臓を再生することを目標に、腎臓発生のメカニズムを探るのが細胞識別分野の西中村隆一教授である。

西中村教授の功績は、腎臓形成に重要な役割を果たす遺伝子「Sall1」の存在を明らかにしたことだ。マウスを使った実験を数年かけて繰り返すうち、この遺伝子を人為的に破壊したマウスに腎臓が形成されないことを確認した。現在、Sall1からSall4まですべての遺伝子破壊マウスを保有、この遺伝子の解析をもとにした腎臓発生メカニズムの研究を進めている。

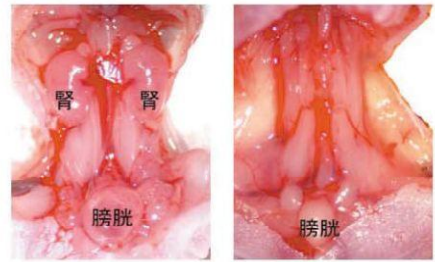


西中村 隆一 教授

「腎臓形成の仕組みを知るためには、Sall1遺伝子ファミリーだけでなく、その上流や下流でどんな遺伝子が働いているのかを明らかにすることも重要です」と西中村教授。「世界中合わせても、現在20個程度しかわかっていませんが、おそらく100を超える遺伝子が腎臓形成に関わっています。それらがどういう順番でどんな組み合わせで働くのか。その解明が研究のメインテーマです」。

しかし、血管や皮膚などの組織に比べ、心臓や腎臓などの臓器再生への道のりはまだまだ長い。「たとえ丸ごと腎臓を再生することができても、それを血管につなぎ、血液をろ過し、尿にしてそれを外に出すという機能を持たせるのはそう簡単ではないのです」。

Sall1遺伝子の欠失によるマウスの腎臓欠損



正常

Sall1遺伝子欠失

しかし、「腎臓病初期の段階で、種類の細胞だけを再生して戻してやれば治療の可能性がある患者ならば、人工透析が不要となる日が来るのはそう遠くないかもしれない」。腎臓内科の臨床医として働き、数多くの患者を診た経験もある西中村教授にとって、長い道のりの先にある「いつかは腎臓再生」という目標は、揺るぎない。

「冠血管新生療法」で自然治癒力を活かした治療法

発生医学研究センターの教授たちが出が口を揃えるのは、「発生原理の



附属病院心臓血管外科科長
川筋道雄教授

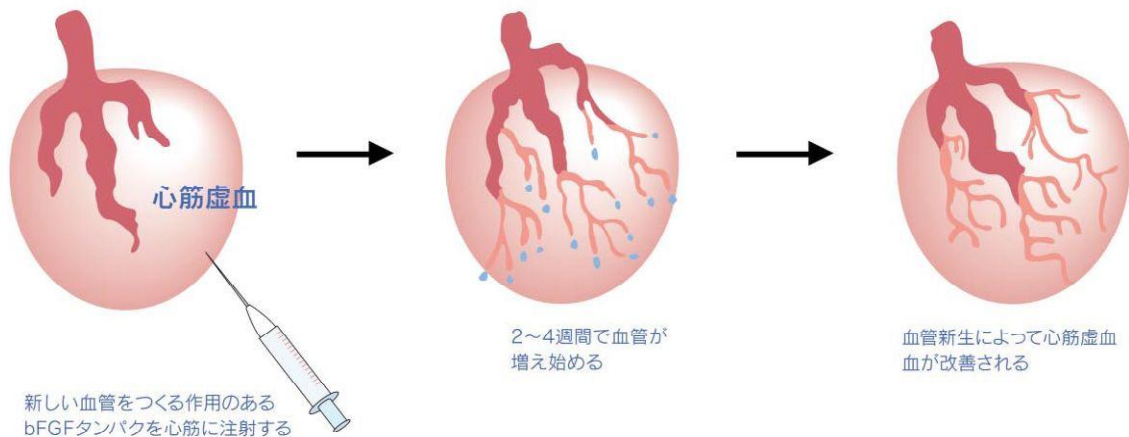
狭心症や心筋梗塞は、冠動脈が詰まり血流不足になることで起こり、治療法は、カテーテルで血管を広げる方法や、別の血管を継いで血流を確保するバイパス手術が主流。「しかし、人にはもともと、血管を作る自然治癒力があり、血管新生タンパク質であるbFGFを心

筋に注入することで、患者自身が血管を新生させる力を促すことができるのです」と川筋教授は語る。現在は、効果を確かめる段階であるため、バイパス手術と併用する形でのみ「冠血管新生療法」が施されている。また、bFGFは細胞を増やすタンパク質なので、細胞が異常に増殖することが原因のガン患者や、血管が増えることが原因の糖尿病性網膜症患者には適用できないなどの制限がある。

解明こそが、実際の治療現場への応用に重要だ」という点だ。また、臨床医との連携を強めることで、医療の進歩に貢献したいというのも共通の認識だ。附属病院心臓血管外科科長で、医学薬学研究部の川筋道雄教授は、その医療の現場にいる臨床医。狭心症や心筋梗塞患者に対し、「冠血管新生療法」という治療法による手術実績を持つ。

しかし、現在15例実施された「冠血管新生療法」のうち13人について血管が増え、血流が戻る効果が見られ、成功率は85%を超える。他県の病院でバイパス手術の再手術が不可能と診断された患者にこの療法を施し、改善された例もある。「改善が見られない原因を探ることも重要ですが、この治療法による単独療法の早期確立も目標です」と

「冠血管新生療法のイメージ」



川筋教授。バイパス手術すら行えない重篤患者へ、治療の道が開ける日が近づいている。

最先端技術と 企業ビジネスの融合

発生研は、多くの企業と連携し、産業と医療の進歩にも貢献している。臓器形成分野の山村研一教授は「末梢神経に障害が起こる遺伝病を中心とした病因・病態解析」や「ゲノム上の非遺伝子領域の機能解析法」などの研究を行っている。

山村教授自身の研究も含め、基礎・臨床医学研究に不可欠で、ヒトの病気解明と治療法開発にも大きく貢献しているのが遺伝子破壊マウス。遺伝子を人為的に破壊した疾患モデル動物である。

マウスもヒトも、遺伝子の数は約3万個。種類の違うそれらの遺伝子を破壊するには、それぞれ違う壊し方が必要となり、膨大な労力と費用がかかる。そこで、山村教授は「可変型遺伝子トラップ法」を開発。どの遺伝子でも破壊できる方法で、ランダムに遺伝子を破壊、あとからどこが破壊されたかを見ることがどんなモデルマウスができるかが分かる。これは、遺伝子破壊



山村 研一 教授

マウス作製の効率を飛躍的に向上させた。

平成12年、山村教授は、「可変型遺伝子トラップ法」を、熊本市に本社を置く(株)トランスジェニックスに技術移転した。もとは抗体作製を扱っていたこの企業は現在、遺伝子破壊マウスの開発と遺伝子機能情報などの提供を主な事業とする東証マザーズ上場企業となっている。この企業の非常勤取締役を名を連ねるのが山村教授。「企業」とはいえ、質の高い研究リソースを提供するという基盤研究への貢献が大きな目的です。このような研究が創薬というバイオベンチャーの発展につながり、そこからいい薬が開発されれば国民への利益として還元もできる。それがこの

企業の理念です。大学の研究成果による先端技術と、そこから利益を生みさらに研究を進展させる企業ビジネス。産学連携は医学・医療の進歩を支えている。

「今やるべき時にある」 若き研究者を育てる 研究センター

発生研は、若き人材を育てる場としても時代を先駆ける。それが、発生研が中心となり、医学薬学研究部および生命資源研究・支援センターとともにを行っている「細胞系譜制御研究教育ユニットの構築」事業(COE拠点リーダー・田賀哲也教授である。この事業は平成14年度文部科学省「21世紀COEプログラム」に採択された。

COEとは「Center of Excellence (卓越した拠点)」という意味だ。日本の各大学に、世界のトップレベルの大学と肩を並べる研究教育施設を作り、研究の発展はもろん世

ポスドクや大学院生など若い研究者たちはそれぞれの研究テーマについて熱い議論を戦わせる



界をリードする人材を育成するため、文部科学省が資金を重点的に援助するプログラムである。

発生研では、平成17年度、大学院生を28人、研究支援者として雇用、ポスドク（博士号を取得した研究者）を13人雇用。「大学院レベルの研究者育成によるポスドクの輩出」、「若手研究者の育成による先導的研究者の輩出」という人材育成を目指す。「大学は教育施設ですから、研究はもとより、人材を育てることも大事です。いい研究をすれば人材が育つ。いい人材が育てば研究がより発展する。それが私たちにできる社会貢献だと思います」と語るのは、今年4月、発生研の新センター長に就任した中尾光善教授である。前セ



田賀 哲也 教授

「発生研にはあふれていると、センター長である中尾教授は語る。「発生再生医学研究は、今、やるべき時にあるのです」

ンター長でCOE拠点リーダーの田賀哲也教授をはじめ、発生研に籍を置く教授たちとともに、若い人材が積極的に、のびのびと研究に取り組める環境づくりを目指している。

また、条教授と田賀教授は、日本分子生物学会で「ライフサイエンスの分野における男女共同参画社会の推進」にも取り組む。「発生研を中心にまずは熊本大学内へ、そして研究の場から社会へ、男女共同参画を発信したい」と、優秀な女性研究者の育成にも情熱を注ぐ。実際、発生研の常勤教職員・研究員・大学院生の中で、女性が占める割合は22%（108人中24人）だ。「ここで研究しようとする若い人たちは、単に技術だけでなく、命の大切さや仕組みを考えて欲しい。そして自らが医学・医療を歩かせているという自覚を持って欲しいのです」。その喜びを味わう機会が発生研にはあふれていると、センター長である中尾教授は語る。「発生再生医学研究は、今、やるべき時にあるのです」

時代に先駆け、 変遷を重ねてきた研究センター



発生医学研究センター長
中尾光善教授

熊本大学発生医学研究センターの出發は昭和14年に設立された「体質医学研究所」。一人ひとりの体質にある個人差の解明を目指した研究所であった。昭和59年、「遺伝医学研究施設」となり、ヒトの遺伝やDNAの解明を目指す。平成4年に「遺伝発生医学研究施設」となり、ここで初めて「発生医学」の名を持つ研究所として生まれ変わった。そして、平成12年、「発生医学研究センター」となつて現在に至る。

「最初は体質学、次に遺伝学、そして今、発生医学。この変遷を見ると、発生研とその前身である研究施設は、常に時代に一番重要となる研究テーマを追究してきたと言えます」と、発生研センター長の中尾光善教授は語る。

熊本大学文学部 教授 木下尚子

“真の日本歴史を求め、 時の旅”を究める

民俗学に憧れて南の島へ

「歴史は好きだけれど、暗記は嫌。歴史を伝える現物や民俗に触れて、自分で過去の時間を感じてみたかったし、本の世界が本当かどうか確かめたかった」。

東京教育大学（現筑波大学）に進学した木下教授は、卒業に必要な単位のほとんどを2年間で取り終えると、塾のアルバイトで貯めたお金と学割キップの束と文庫本『海南小記』（柳田國男著）を持って、南の島へと旅立ちました。

民俗学から考古学へ

黄色い布リュックを背負い、先生

に書いてもらった紹介状を片手に、一大決心、夜行寝台特急で九州へ。奄美の考古学に詳しい熊本大学の白木原和美教授（当時）に会い、鹿児島から船出して、種子島、奄美大島、徳之島、沖永良部島、沖縄本島、宮古島、石垣島、竹富島、西表島そして波照間島。旅は2か月に及びました。

「安宿に泊まりながら、報告書の地図を頼りに遺跡を訪れ、資料館や農家で農具の写真を撮り、図を描きました。ハブ除けに草むららを棒切れてたきながら歩いたり、一面のさとうきび畑の中で、すごい方言のおばあちゃんに孫だと思われ込まれたり、ユタ（沖縄地方の民間

宗教者）に予言されたり……。そんな経験の中で、書物の後ろにある大きな世界に確かに触れたと感じることがあり、この世界をもっと知りたいと、初めて思ったのです」。

4月の半ば、いったん大学に戻りましたが、再び西表島に。今度は村の老夫婦の家にホームステイしながら、村で使われている道具や習俗、祭り、周辺の植物など、村の暮らしのすべてを調査することが目的でした。

しかし、この調査で重大な岐路を迎えました。「調査が進むと、村の複雑な人間関係と無関係ではいられません。でも私はそのやりくりが苦手でした。それで、人間の暮らし

「高校生の頃、柳田國男が書いた民俗学の本を読んだんです。すると、学校の歴史で学ぶ日本とは違う日本が見えてきた。それが民俗学や歴史に興味を持ったきっかけでした」。今回は琉球列島の考古学を研究する、文学部の木下尚子教授にお話をうかがいました。



沖縄県・嘉門貝塚から出土した腕輪粗加工品。木下教授は、こうした貝製品の形、出土状況や分布から貝交易のルートを解明しています

PROFILE

木下尚子 (きのした・なおこ)

1954年東京都出身。東京教育大学(現筑波大学)文学部卒業後、九州大学大学院文学研究科博士課程修了。1998年から現職。1997年、第6回雄山閣考古学賞。2005年10月、「学術の国会」ともいわれる第20期日本学術会議会員に選出される。発掘では久留米絰のもんぺを愛用、学生たちにカルチャーショックを与えている。



にびたりと寄り添っている『モノ』を研究することになりました。モノは、これを使う人の生活を見事に教えてくれますし、私は造形物が好きでしたから。3年生の後半、モノについてのアプローチを極めていく学問分野の考古学に、専門分野を変更しました」。

九州大学大学院に進むと、琉球列島の遺跡の発掘調査に数多く参加。1995年熊本大学に籍を置いてからも、せっせと奄美・沖縄へ通い、弥生時代以降、琉球列島と九州・本州の間で行われてきた貝交易のルートを探りました。貝交易とは、琉球列島のサンゴ礁の海に生息する大型巻貝を交易するために、九州と沖縄を結んで開かれた1200kmに及ぶ海上交易路です。日本の先史時代人は、この交易を通してはるかなサンゴ礁世界に通じ、南の島々の文物を受け入れてきました。一方、琉球人は、古代から中世にかけて、今度はヤコウガイ(夜光貝)の交易を中国や日本と行い、独自の文化を築いて、15世紀に琉球国を



1400~1300年前のヤコウガイ。この頃、唐ではヤコウガイを材料にした螺鈿細工が盛んで、琉球列島からも多くのヤコウガイが中国に渡ったと考えられています

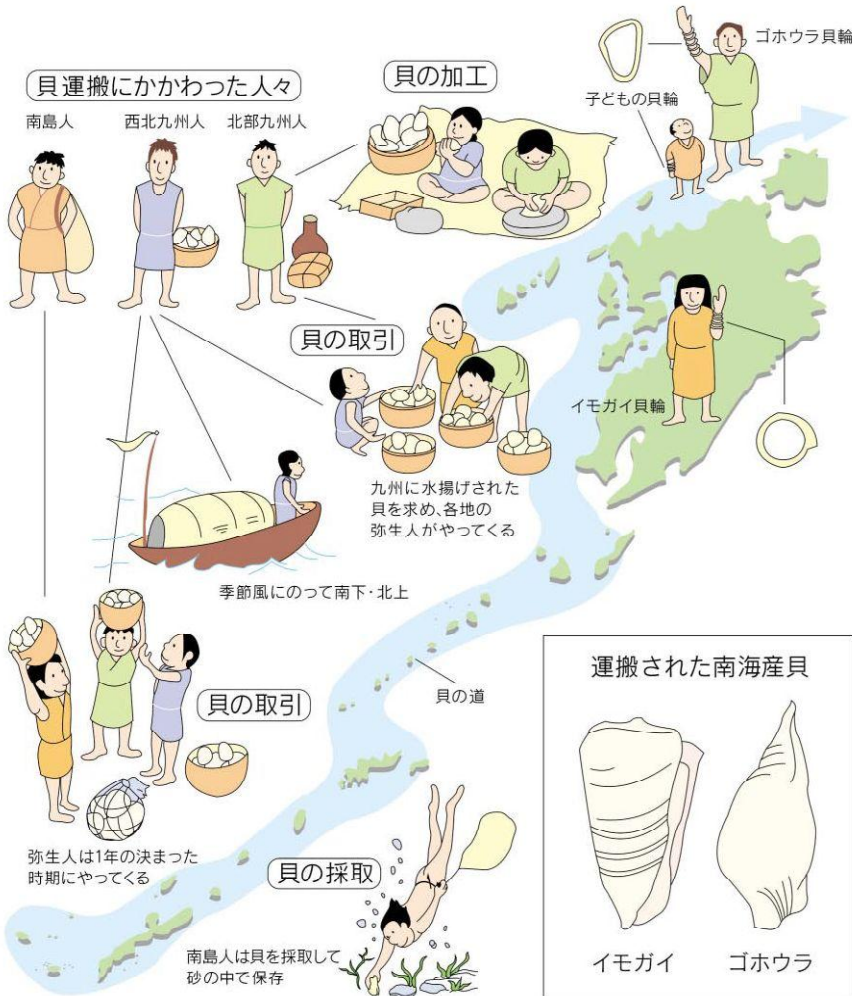
貝交易の歴史が明かす日本の中の別の“国”

九州大学大学院に進むと、琉球列島の遺跡の発掘調査に数多く参加。1995年熊本大学に籍を置いてからも、せっせと奄美・沖縄へ通い、弥生時代以降、琉球列島と九州・本州の間で行われてきた貝交易のルートを探りました。貝交易とは、琉球列島のサンゴ礁の海に生息する大型巻貝を交易するために、九州と沖縄を結んで開かれた1200kmに及ぶ海上交易路です。日本の先史時代人は、この交易を通してはるかなサンゴ礁世界に通じ、南の島々の文物を受け入れてきました。一方、琉球人は、古代から中世にかけて、今度はヤコウガイ(夜光貝)の交易を中国や日本と行い、独自の文化を築いて、15世紀に琉球国を

つくりました。「日本列島の歴史に、こうした交易物語を持つ南の独立国があったことを忘れてはなりません」。

「遺跡を掘り、遺物を見、また遺跡を掘り遺物を見る、このようにして時間の階段を過去に下りていくと、途中で遺物が『こつちへ来い』と手を引いてくれる。足元の割れ目を覗くと、先史世界がしーんと広がっている。これ、素敵でしょう?」。

「熊大のどの研究室で学ぼうと、学生にはこういう学問のときめきを感じて巣立ってほしい。大学では、自力で問題を見つけ、それを解決するための方法を考え、材料を集め、分析し、よくよく考えて答を出す”訓練”をします。知識はそのための武器。これがきちんとできれば、社会のどこに行っても自信を持って戦っていけると思っています」と後進へのエールを送ります。



木下教授による貝交易の推定図

熊大群像

熊本大学広告研究会「KumAnd(くまんど)」

大学の「ステーション」的な存在に

熊本大学に関わりのある人々に、熊本大学や熊本に関するさまざまな情報を提供する熊本大学広告研究会「KumAnd(くまんど)」。彼らが制作する熊大生向けのホームページは、じわりじわりと学生の間で浸透し、今では1日に約300人がアクセスする人気ページに。ほかにも、イベントの企画など積極的に活動を行うKumAndの皆さんにお話をうかがいました。

熊大や熊本の魅力を外部へ発信したい

日の暮れた教室の二室に、KumAndの学生たちの賑やかな声が響きわたります。行われているのは、制作しているホームページ上で開催するイベントの話し合い。笑い声の絶えない和やかな雰囲気の中にも、鋭い意見が活発に飛び交い、学生たちの真剣さが伝わってきます。

結成のきっかけは、約2年前。代表の中嶋积光(しゃこう)さんが、東京の大学生に「熊本の学生の魅力は？」と聞かれた時、何も答えられなかったのだそう。「魅力はたくさんあるのに、うまく伝えられなくて。熊本や熊大の良さ

をもっと外に発信したいと思いました」。その後、平成16年8月に「KumAnd」を設立しました。

ホームページの制作からイベントの企画

KumAndの活動内容は、主に3つに分けられます。1つ目は、独自のホームページ「熊大WEB」の制作。一人暮らしの学生宅を突撃訪問し、学生の素顔を紹介する「リゴンルーム」、現役学生の就職活動の体験記や起業家などのインタビューを紹介する「あしたのジョブ!」などバラエティに富んだ約15のコンテンツで、学生の役に立つ情報を掲載。メンバー

が1人ずつ各コーナーを担当し、受け持ちのコーナーの企画や取材を各自で行います。2つ目に、講演会やワークショップといったイベントの企画・運営。3つ目は、さまざまな媒体を用いた各種団体のPR活動です。依頼内容により、ホームページやビデオ、パンフレットなどの立案・企画・制作を行います。

結成当初はなかなか集まらなかったメンバーも、現在は15人に。中嶋さんは、「同じ思いを持った、洗練されたメンバー」と、彼らに厚い信頼を寄せています。「KumAndに入って新しいことに挑戦する楽しさを知りました」。普通の学生生活では体験できない活動ができ

るのが面白い。「いい意味で無茶ができるようになったので、精神的に強くなった」。「思い描いていた学生生活よりずっと忙しいけれど、毎日充実している。面白い大学にしたい」とは、メンバーたちの声。



KumAnd代表の文学部大学院文学研究科
言語文学専攻修士課程2年・中嶋积光(しゃこう)さん



「もっともっと情報発信力をつけてほしい」と話す水元助教授

それぞれが、KumAndの活動にやりがいや充実感を見出しているようです。

KumAnd設立に関わり、今も顧問を務めている文学部コミュニケーション情報学科の水元豊文助教授は「若い人の感性で情報発信をしてほしいですね」とメンバーにエールを送ります。「学生だからと中途半端になるのではなく、ZPOでも株式会社でもいいので、広告研究会を法人化してビジネスをしてやろう、ぐらいの気持ちで取り組んでほしい。学内だけでなく社会的に通用するような」

大学と まわりの世界をつなぐ 橋渡し役になりたい

熊本の魅力について「ゆつたりし



「熊大WEB」上でのイベントの話し合いを行うKumAndのメンバーの皆さん

ているところが好き」という中嶋さん。「でもそれは、長所でもあり短所でもあると思います。熊本の学生は、貪欲に外に向かってアピールしていこうという気持ちが弱い。一人ひとりいろいろな可能性を秘めているのに、力を抑えている部分があります。みんなが力を合わせて、一人ひとりが持っている力を発揮すれば、もっと面白い

大学になると思います。これからいろいろな失敗をしながら、少しずつ成長していきたい、と語る中嶋さん。「大学とまわりの世界をつなぐ橋渡し役ができれば。今後は、KumAndがみんなの窓口としてお役に立てるような、熊本大学の「ステーション」的な存在になればいいですね」。学生たちの快活なパワーが、熊本大学をより魅力ある大学へと変えていきます。



熊大WEB <http://kumadai.org/>



を訪ねて

マツダ(株)プログラム開発推進室所属・主査

川崎俊介さん

「がっついいクルマをつくりたい」 —「創」と「造」の両方に携わるエンジニアの誇りと喜び—

今年、日本に先駆けて米国で発売開始されたマツダ「CX-7」。開発チームのリーダーとして、300人近いチームメンバーを率いたのが川崎俊介さんです。川崎さんの仕事への情熱、エンジニアとしての誇りと喜び、そして、車の魅力を語っていただきました。

「CX-7」米国デビュー

今年の1月初め、米国のロサンゼルスとデトロイトで開催されたモーターショーで、スポットライトを浴びて輝くマツダの新車「CX-7」の側に私は立っていました。車を取り囲むのは、感情表現の豊かな米国の人々。「CX-7」の姿に見入り、感動してくれているのが手に取るようにわかりました。その時に感じた晴れがましさと喜び、開発に関わった数多くのスタッフへの感謝の気持ちは、今も鮮やかに私の胸によみがえります。

「CX-7」の開発が始まったのは3年半前。この車は当時のマツダの課題であった北米戦略の第一弾で

した。新車を開発する場合、どんな車を、どんな人を対象に、どんな価格で売るのが決めるため、まずは、徹底的なマーケティングリサーチを行います。デザインを絞り、決まればまたリサーチ。他社も含めいろいろな車でテストドライブを繰り返し、ステアリングやハンドリング、ノイズを試し、専門家の意見を集約、チーム一丸となり、新車の諸元を二つひとつ決めていきます。

リーダーとして重要な役割は、マイルストーンの通過です。いわば「関所」のようなもので、一つひとつの達成要件に対し、トップマネジメントのレビューを受け、承認や合意を得なければ次へ進めません。大変な

責任ですが、二つを超えるたびにチーム全員で打ち上げをしたいほど大きな達成感を味わいます。

変わらない車への思い

私は、車とは実に魅力的なものであると感じています。私がひかれるのはやはり「格好よさ」。中学生の頃、レースは見たことがないのに、レーシングカーを見てその流れるようなスタイルに感動し、写真を切り抜いてフレームを作り、飾ったこともあります。

しかし、子どもの頃から自動車を作るエンジニアになりたいと考えていたわけではありません。大学時代

PROFILE

川崎 俊介 (かわさき・しゅんすけ)

山口県宇部市出身。1974年熊本大学工学部機械工学科卒業、東洋工業(株)(現・マツダ(株))入社。車両設計部シャシー設計グループ所属後、北米マツダデトロイトオフィス・エンジニアリングマネージャー。帰国後、マツダ本社車両開発推進部設計・副主査を経て、現在プログラム開発推進室・主査。





マツダ「CX-7」。5人乗り新型クロスオーバーSUV (Sports Utility Vehicle)。SUVの実用性と、スポーツカーのスタイリングの融合をコンセプトに開発、今年から北米での販売がスタート

は自動車部に所属していましたが、音楽も好きでした。小さなバンドのダンスパーティーなどへの楽器運びを自動車部のトラックで手伝っているうちに、いつしか自分もそのバンドでサックスやトランペットを吹くようになりました。バイクも好きで、よく阿蘇にもツーリングに行きました。就職のとき自動車メーカーを選んだのは、やはり「車が好き」という思いがずっと変わらなかったからでしょう。マツダに決めたのは、ロータリーエンジンなど、他社がやっていないことをやっている「個性」に魅力を感じたからです。

最後まで面倒を見るのが エンジニア

「創造」という言葉がありますが、エンジニアの特権は、デザイナーの「創」というクリエイションの部分と、実際に物をつくる「造」の両方に携わることが出来ることです。無から何かを考え出すデザイナーの仕事もすばらしい。しかしそれを形にし、動かして命を与え、使いやすさやユーザーの求める性能も加味、市場に出た後のモデルチェンジにも携わるのがエンジニアです。この「最後まで面倒を見る」仕事に私は誇りを持っています。

学生のみなさんが描く将来の道はさまざまだと思います。私のようなエンジニアの仕事に限らず、どんな道を進むにしても、学生のうちにしっかりと先を見据え、「何をすべきか」という問題意識を持つことは大切です。そして、学生のうちに学んだことは必ず社会に出て役に立つ。これが、社会人の先輩としてみなさんに伝えたいことです。そして失敗を恐れず、「やりたい」と思うこと、「出来るかもしれない」と思うことには、どんどんチャレンジしてください。もし失敗しても反省して次に進む。それが成長というものだと思えます。



2006年1月27日、熊本大学工学部百周年記念館で講演した川崎氏(上)。新車開発の興味深い話に多くの人が聴き入っていました(下)

シリーズ

国際交流協定校紹介——ニュージーランド・マッセー大学——

欧米地域とは違う 英語圏の魅力

全世界の若者が集う学園都市で学ぶ

今回は、国際交流協定を締結しているニュージーランドのマッセー大学で事務系職員海外研修を行った、熊本大学医学薬学等事務部係員の田尻絵美さんに、マッセー大学を紹介していただきます。



マッセー大学のメインキャンパスの1つがあるパーマストンノース市の中心部

英語力を高め、もつと円滑な コミュニケーションを

「医学部の留学生の窓口を担当していますが、彼らのほとんどが日本語を話せません。そのため英語でコミュニケーションをとるのですが、読解はある程度できても、会話となると上手くいかないことが多くて……。もつと高い英語力を身につけたいと思っていた時にこの協定校への派遣研修を知り、応募しました」。田尻さんは、昨年10月下旬から約2カ月間、ニュージーランドのマッセー大学の語学研修や国際交流担当部署課でのインターンシップなどに参加しました。

平成18年4月1日現在、熊本大学

の大学間交流協定校はアメリカ合衆国のモンタナ大学や韓国の培材大学など、世界14カ国26大学にのぼります。田尻さんが留学したマッセー大学と熊本大学が大学間学生交流協定を締結したのは1996年。以後、毎年1〜2名の学生が交換留学しています。熊本大学から派遣された学生は皆、高い語学力と国際感覚を身に付けて帰国、コミュニケーションの場で活かしています。

留学生に優しい街で 不自由のない学校生活

田尻さんが滞在していたのは、首

都ウエリントンから北へ約14.5kmの距離にあるパーマストンノース市。北島中南部最大の都市で、人口約7万5000人。マッセー大学のメインキャンパスがあり、マッセー大学を中心とする学園都市は、人口の3人に1人が15〜30歳という若者の活気あふれる街です。

「パーマストンノースの人たちは、とってもフレンドリー。道で会うと『ハロー!』と気さくに声をかけてくれます。交通基盤も整備されていて、市内のバスは何と無料。物価が安いし治安も良くて、とても留学生に優しい街です」。

田尻さんは、主にマッセー大学の



「短期間でも驚くほど英語の力が上達しました」と語る田尻さん



ELCのクリスマスパーティにて。こんな楽しい場でもコミュニケーション力を身に付けることができる

「イングリッシュ・ランゲージ・センター (ELC)」という施設で学びました。ここは、学部への進学を希望する留学生が、基礎的な英語力を身に付けるインターナショナルスクール。1クラス7〜8人で、午前中は英語のレッスン、午後はマーケティングやマネジメントなど、専門的なレッスンを英語で受けます。「ELC」では、学生もスタッフも先生もみんなファーストネームで呼び合うアットホームな雰囲気がありました。が、レッスン中はみんな積極的に発言するから、私も負けないように話しました。スタッフ数やカリキュラム、施設が充実していて、英語を学びたい人にとっては最高の環境です」。

英語圏を中心に 異文化体験のチャンス

もともと農科大学から発展し、現在は人文、社会科学、理工学と幅広い分野でニュージールランドの先導的役割を果たしているマッセー大学。日本の国立大学では東京大学と交流協定を結んでいるほか、多くの私立大学とも交流があります。日本だけでなく、世界各国から留学生が集まる大学でもあり、マッセー

大学に学ぶことは、英語圏を中心にしてさまざまな異文化と出会うチャンスを得ることにもなります。

「約2カ月間という短期滞在でしたが、帰国後は、出発前と比べて英語の会話力が格段に上達して、自分でも驚いています。マッセー大学は、質の高い先生やスタッフのほか、英語のレベルに合わせたカリキュラム、パソコン室や図書館、ジムなどの施設が充実していて、最先端の英語教育が受けられます。これから留学を考えている人には本当におすすめです」。

留学生に優しい街での異文化体験が、語学の面でも人としても成長させてくれるのです。

Massey University

マッセー大学

同大は、1968年に設立されたニュージールランドの国立総合大学。3つのキャンパスがあり、学生数は合わせて約2万5000人。経営学、芸術学、教育学、人文・社会科学、自然科学と幅広い分野で高レベルの教育研究を展開する一方、古くから酪農業地帯として栄えた地域にあるだけに、農学や畜産学などの研究も盛ん。

●平成18年度 公開講座●

スキルアップしよう!

講座名 看護診断セミナー ～NANDA-NOC-NICを学ぶ～

- 講師名 森田敏子(医学部保健学科教授)・岩本テルヨ(同)
- 開講日時 平成18年10月14日(土) 10:00～17:00
10月21日(土) 10:00～17:00
10月28日(土) 9:30～12:30
- 会場 医学部保健学科
- 募集期間 平成18年8月21日(月)～9月22日(金)
- 募集人員 30名
- 受講料 8,700円
- 対象者 看護職、看護教員

講座内容 地域住民から期待される質の高い看護を提供するために、患者に適した看護診断、看護介入、看護成果のリンケージを学習します。

講座名 自治体職員のための 地域ガバナンス政策ゼミナール

- 講師名 上野真也(政策創造研究センター助教授)ほか
- 開講日 平成18年6月3日(土)、6月10日(土)、6月17日(土)、6月24日(土)、7月1日(土)
- 開講時間 10:00～12:00
- 会場 五高記念館
- 募集期間 平成18年4月3日(月)～5月12日(金)
- 募集人員 15名
- 受講料 7,500円
- 対象者 自治体職員

講座内容 地方分権時代の地方公務員に求められる、複雑な地域課題を解決するための政策形成に必要な基礎知識を学びます。

講座名 リーダーシップ・トレーニング ～リーダーシップの向上と組織の活性化を目指して～

- 講師名 吉田 道雄(教育学部附属教育実践総合センター教授)
- 開講日 Aコース:平成18年7月5日(水)、7月6日(木)、10月6日(金)
Bコース:平成18年8月16日(水)、8月17日(木)、11月16日(木)
- 開講時間 9:30～16:30
- 会場 教育学部附属教育実践総合センター
- 募集期間 Aコース:平成18年5月1日(月)～6月13日(火)
Bコース: “ ” ～7月25日(火)
- 募集人員 各コース30名
- 受講料 8,200円
- 対象者 組織・団体のリーダー

講座内容 リーダーシップと集団に関する科学的研究を基礎にして、参加者のリーダーシップ向上と人間関係改善のための知識・技術を身につけます。
※A・Bの2コースがありますが、内容は同じです。

講座名 陸上競技教室 ～速く走る秘密～

- 講師名 中川 保敬(教育学部教授)
- 開講日 平成18年7月16日(日)～9月2日(土)の全8回
- 開講時間 16:00～18:00
- 会場 熊本大学武原グラウンド(陸上競技場) ※雨天時は黒髪地区体育館
- 募集期間 平成18年4月3日(月)～6月30日(金)
- 募集人員 40名
- 受講料 8,200円(保険料・大会参加料は別途)
- 対象者 小学生、中学生、クラブ指導者や教員等

※スタッフの全国大会出場のため日程を変更する場合がございます。

講座内容 大学が有する技術や知識を活かし、運動の基礎である「走」「跳」「投」の要素を含んだ練習をいろいろな器具を使いながら工夫した指導内容で行います。
子ども達には、速く走る秘密を楽しみながら体験、理解してもらい、また、指導者には子ども達への具体的な指導場面を通して、その効果的な指導法の研修ができる機会を提供し、陸上競技の特性を子ども・指導者・大学が一体化し実践します。

発生医学研究センターから

公開キャラバン開催 ～私たちの研究を紹介します～

発生医学研究センターは、発生学的視点から生命科学と医学の統合的研究を推進しています。本荘キャンパスにある当センターの研究活動を多くの方に知っていただくため、社会的関心が高い話題を取り上げ、公開セミナーを開催します。入場は無料です

日時 平成18年4月22日(土) 13:30～15:30

会場 くすの木会館(黒髪北キャンパス)

セミナー講師 桑 昭苑 教授『ヒトES細胞研究で再生医療への道を拓く』
『』内は演題
山村 研一 教授『マウスモデルでヒト遺伝病を解明する』
西中村 隆一 教授『腎臓発生・再生研究で腎臓透析克服をめざす』

対象 学生、教職員のほか、一般の方の参加も歓迎します。

※詳細は、ホームページをご覧ください(キーワード「発生医学」で検索してもご覧いただけます)。http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp

大学院入試説明会・見学会開催

平成19年度の大学院入試説明会・見学会の日程が決まりました。

日時 平成18年5月13日(土) 11:00～16:00

会場 発生医学研究センター 熊本市本荘2-2-1

説明会 12:30～14:00 一階カンファレンス室
センターの概要・特色、各分野の研究内容、大学院の仕組み・入試などについての説明を行います。

見学 11:00～16:00 各分野
説明会の前後に各分野を自由に見学できます。

※詳細はホームページで。また、パンフレット(pdf版)もダウンロードできます。

文化芸術・心ゆたかに

講座名 ハーンと漱石
～その生涯と熊本時代～

- 講師名 西川 盛雄(教育学部教授)
- 開講日 平成18年6月17日(土)・6月24日(土)・7月1日(土)・7月8日(土)・7月15日(土)
- 開講時間 14:00～16:00
- 会場 五高記念館
- 募集期間 平成18年4月3日(月)～5月26日(金)
- 募集人員 20名
- 受講料 6,200円
- 対象者 一般社会人

講座内容

熊本に縁の深いラファディオ・ハーンと夏目漱石の生涯と作品に触れながら、その理解を深めるための解説・紹介を行います。

講座名 映画の魅力を探る
～スター、美術を中心に～

- 講師名 田中 雄次(文学部教授)ほか
- 開講日 平成18年10月21日(土)・10月28日(土)・11月4日(土)・11月11日(土)・11月18日(土)
- 開講時間 14:00～17:00
- 会場 文学部法学部棟 A-1教室
- 募集期間 平成18年9月4日(月)～10月3日(火)
- 募集人員 25名
- 受講料 7,200円
- 対象者 一般社会人、大学生、高校生

講座内容

映画史の背景にある時代の流れと、スターや美術(装置・セット)に焦点を当てて、映画を深く、楽しく鑑賞する方法を学んでいきます。

講座名 ワーグナー芸術への招待
～英雄ジークフリートの生・愛・死を描いた巨編の解説と鑑賞～

- 講師名 杉谷 恭一(文学部教授)
- 開講日 平成18年7月1日(土)～9月16日(土)の全12回
- 開講時間 14:00～16:00
- 会場 文学部法学部A3教室
- 募集期間 平成18年4月3日(月)～6月9日(金)
- 募集人員 20名
- 受講料 9,200円
- 対象者 一般社会人、大学生、高校生

講座内容

ワーグナーの作品を順次取り上げて、文学(台本)と音楽の両面からワーグナー芸術の全体的な理解を目指します。今回はワーグナー畢生の大作《ニーベルングの指環》の第3部《ジークフリート》と第4部《神々の黄昏》の解説と鑑賞を行います。

講座名 ドイツの言葉と文化
～楽しみながらドイツを知ろう!～

- 講師名 バウアー・トビアス(文学部講師)ほか
- 開講日 平成18年5月27日(土)～7月22日(土)の全9回
- 開講時間 10:30～12:00
- 会場 大学教育センター棟 B-201教室
- 募集期間 平成18年4月3日(月)～5月2日(火)
- 募集人員 30名
- 受講料 7,200円
- 対象者 一般社会人、大学生、高校生

講座内容

今年2006年は、サッカーワールドカップがドイツで開催されますが、それを機に、熊本在住の社会人、大学生、高校生を対象にドイツ語とドイツの文化を紹介いたします。前半の3回で、初級・中級に分かれてドイツ語の講習を行い、後半の6回で、さまざまな視点からドイツの文化を分かりやすく解説していきます。楽しくドイツを勉強しましょう!

講座名 陶芸教室
～つくる喜びを求めて～

- 講師名 芳武 敏雄(教育学部附属養護学校教諭)
- 開講日 平成18年5月13日(土)～12月16日(土)の全13回
- 開講時間 10:00～12:00(正式な日程・開講時間は開講式で発表)
- 会場 附属養護学校 陶工室
- 募集期間 平成18年4月3日(月)～4月21日(金)
- 募集人員 30名
- 受講料 10,200円(別途教材費5,000円程度)
- 対象者 一般社会人、障害児(者)

講座内容

陶芸に関する基本的な知識や技術の習得を目指します。併せて、健常者と障害者が陶芸をとおして共に学ぶことにより、特別支援教育への理解・啓発を図ります。

受講者募集

◆詳しくは、受講者募集パンフレット(無料配布中)又は下記ホームページでご確認ください。パンフレットご希望の方は、地域共生戦略室へお問合わせください。

◆受講申し込み方法
パンフレットに添付しているハガキ、又は官製ハガキに必要な事項をご記入のうえ、お申し込みください。なお、FAXまたはEメールによるお申し込みも受け付けています。

※必要事項

- ①希望講座名 ②氏名(フリガナ)
③年齢 ④千住所 ⑤電話番号



生涯学習教育研究センター

お問合わせ先

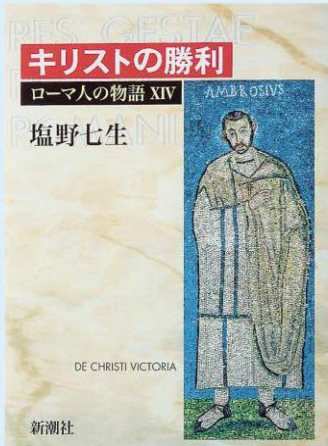
熊本大学総務部総務課地域共生戦略室

〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号
TEL:096-342-3121 FAX:096-342-3110

E-mail: sos-tiiki@jimu.kumamoto-u.ac.jp
URL: http://www.lifelong.kumamoto-u.ac.jp

Vol.12
Book

お薦めの一冊



キリストの勝利
ローマ人の物語 XIV
塩野七生 著



医学薬学研究部教授
谷原 秀信

塩野七生「ローマ人の物語」は、全15巻の構想中14巻が出版され、終盤を迎えています。本巻では、ローマ帝国は既に崩壊が進行し、巨竜がのたつたように組織の死を迎えつつあります。組織の成長期を記載する文章は澆刺として、英雄達の最期が必ずしも幸福なものではなかったとしても、充実した生涯を駆け抜けた爽快感が残りました。ユリウスカエサル、アウグストゥスの艱晦、ティベリウスの孤高ときわめて興味深い人物群が帝国の暴盤を構築しました。

しかし本巻では、帝国の膨張と発展は頂点を過ぎ、統率は混乱し、精神性が墮落し、過去の成功こそが崩壊に至る理由へと変貌します。総ての努力が無に帰していく様は、

「ローマ人の物語」で印象深いのは、ローマ人が最高の徳（ウィルトゥス）とみなしたのは、「力量」であるという事でした。発展期には、「力量」のある指導者が組織によって選択され、構成員の強固な支持を受けてリーダーシップを発揮します。他方、衰退期には、「力量」のない指導者が姑息な利害の打算で選択され、組織内部の閉塞的で陰湿な権力闘争で互いを阻害します。衰退に至る組織は、「力量」のない指導者によつて迷走が始まり、なげやりな無責任・無関心が構成員に横行します。これは、近代の組織にも合致する現象です。

現在、我々が住む世界は、過剰な競争原理が導入され勝者と敗者が二分極化する競争社会であり匿名で誹謗中傷が可能なインターネット時代を迎えています。この孤独で寂しい時代には、品格ある人生を過ごすためには、歴史に学び、自らの歴史観の中で「名を惜しむ」という感性を所有していることが大事なのだろうと思います。

脱皮する子飼商店街



熊本大学目の前の道を、熊本城の方へ5分ほど歩くと大きなスクランブル交差点とぶつかる。白川の向こう側と、阿蘇へと向かう道の結末点であるこのスクランブル交差点、その一角を担うのが子飼商店街だ。白川に沿っておよそ300メートル続く商店街には、新鮮な野菜を並べる八百屋や、たくさん色で飾られた花屋、大学教授に人気のパン屋が立ち並ぶ。ちよつと見ていかんね? 「安くしとくよ」という言葉が飛び交うこの商店街は、長い間「庶民の台所」として愛されてきた。下通りや上通りの華やかさはないが、昔ながらの風情がある。

「子飼」という地名の由来は、奈良・平安時代に遡る。1000年以上も昔、この地域には蚕を養う長者が多く住んでいた。そこから「蚕養」という地名が生まれ、そして「子養」と変化し、現在の「子飼」という名前になった。

現在の商店街としての機能を持ち始めたのは、終戦直後のことだ。

リヤカーに野菜や魚を乗せた人々がこの地で露店販売を始め、生産地直送の新鮮な食料が庶民の間で話題となり、賑わいが生まれ、商店街が形成された。高度経済成長の時代には、年の瀬ともなると道幅5メートルの通りには、正月の買出し客で溢れた。「歩く方向が、自然と一方通行になってたんだよ、人が多くてね。『あ、買い損ねた!』」つて思つても後ろには戻れなかったなあ。子飼で割烹料理屋を営む主人は当時を語る。

しかし、現在、子飼商店街はかつての賑わいを失いつつある。顧客の高齢化や郊外ショッピングセンターの出店ラッシュの影響を受け、買い物客は減少し、シャッターが降りたままの店はいくつもある。

この状況を見て立ち上がったのが学生だ。賑わいを取り戻すため、学生たちが積極的に商店街へと入り込んでいる。子飼をテーマにフリーペーパーを作成する者、商店主を招いたワークショップを開催する者、空き店舗を展示スペースとして利用し作品を発表するグループ。最近では、大学が「コミュニティスペース」を借りて教授・学生・商店街が、ともに活性化を試みる動きがでてきた。

買い物客ではないけれど、商店街との新しい付き合い方を探し、それを実行していく。新しい子飼商店街の姿を創り上げていくのは若者なのかもしれない。

（Kumada代表 文学研究科2年生 中嶋 釈光）

熊本 新哲学の道

新聞

で見る 熊本大学

3/2 熊本日日新聞



熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム棟の中央に位置付けられる五高記念館。熊本市川原町の旧大正時代の洋館を改修したものである。

第1弾の地域貢献を図る 写真展開催

熊本大学は、創立100周年を記念して、五高記念館の中央に位置付けられる五高記念館。熊本市川原町の旧大正時代の洋館を改修したものである。この記念館は、熊本大学の歴史や文化を伝えるとともに、地域貢献を図るための写真展を開催する。写真展は、熊本大学の歴史や文化を伝えるとともに、地域貢献を図るための写真展を開催する。写真展は、熊本大学の歴史や文化を伝えるとともに、地域貢献を図るための写真展を開催する。

2005.12/19 熊本日日新聞



がん治療や臓器再生を目指す ヒトES細胞使い研究へ

熊本大学は、がん治療や臓器再生を目指す研究に、ヒトES細胞を使用する。この研究は、がん治療や臓器再生を目指す研究に、ヒトES細胞を使用する。この研究は、がん治療や臓器再生を目指す研究に、ヒトES細胞を使用する。

2/22 熊本日日新聞



特殊ゴムを共同開発 熊大と「つちやゴム」 体内に電流・熱送る

熊本大学と「つちやゴム」が共同開発した特殊ゴム。この特殊ゴムは、体内に電流・熱を送る。この特殊ゴムは、体内に電流・熱を送る。この特殊ゴムは、体内に電流・熱を送る。

内臓脂肪 30-70%減少

課外活動において優秀と認められた団体や個人を表彰する学生表彰式が、崎元学長、足立副学長、佐藤事務局長、石橋学務部長、顧問教員他関係者出席のもと、3月22日(水)に行われ、学長より表彰状及び記念品の贈呈が行われました。なお、受賞者は以下の団体、個人でした。

学生表彰

- 団体 柔道部：第47回全国国立大学柔道大会(団体戦)第3位入賞
- 団体 自動車部：鈴鹿市長杯平成17年度全日本学生ジムカーナ選手権大会(女子団体)第2位入賞
- 個人 塩塚あかね：天皇杯第74回日本学生陸上競技対抗選手権大会(女子100mハードル)第2位入賞
- 個人 塩塚あかね：第39回織田幹雄記念国際陸上競技大会(女子100mハードル)第3位入賞
- 個人 山下洋介：第60回国民体育大会陸上競技大会(男子4×100R)第2位入賞
- 個人 岩本慎一郎：第60回国民体育大会陸上競技大会(男子4×100R)第2位入賞
- 個人 岩本慎一郎：第75回九州学生陸上競技対抗選手権大会(男子100m)優勝
- 個人 金子智哉：第75回九州学生陸上競技対抗選手権大会(男子三段跳び)優勝
- 個人 桑崎留美：第75回九州学生陸上競技対抗選手権大会(女子5000m競歩)優勝
- 個人 田口千明：第75回九州学生陸上競技対抗選手権大会(女子ハンマー投げ)優勝
- 個人 森長亜由美：第16回全日本アーチェリー西日本大会(女子個人)優勝
- 個人 佐々木美波：鈴鹿市長杯平成17年度全日本学生ジムカーナ選手権大会(女子個人)第2位入賞
- 個人 川原田亮：第34回全九州学生競技ダンス選手権大会(ラテン・アメリカン全種目)優勝
- 個人 佐間野智寿：第34回全九州学生競技ダンス選手権大会(ラテン・アメリカン全種目)優勝



編集後記

本号でも紹介の通り、熊大のロゴマークができました。伝統の銀杏マークは残しつつ、新たにコミュニケーションマークとしてのロゴマークの誕生です。剛毅木訥の五高からの伝統に加え、国立大学法人として新たなフェーズを迎えた熊本大学に、TPOに応じて使い分ける洋服が増えたともいいたらいでしょうか。デザインを私なりに解釈するならば、熊本大学の学生や教職員はもちろんのこと、OB・OGや地域社会も一緒になって、社会の数々の困難を打ち破り、未来へのベクトルを示す熊本大学でありたい。そのような決意の表明のようにも思えます。新しい洋服が身体になじむまでには少し時間を要するかもしれませんが、総合大学であるからこそ、それぞれの専門性等の違いでいろいろな方向にベクトルは向いていると思います。しかし、思いとしてのベクトルが重なり合うとき、知の融合体としての熊本大学がさらに大きな力を発揮すると確信します。(編集委員：緒方公一)

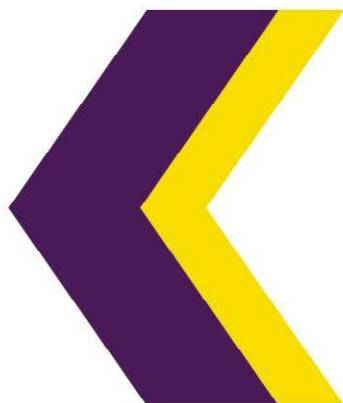
- 編集委員
- 佐藤毅彦 教育学部
 - 緒方公一 工学部
 - 桑和彦 発生医学研究センター
 - 上野真也(委員長) 政策創造研究センター
 - 事務局/総務課広報室
 - 文責/熊大通信WG

熊本大学公式ホームページ <http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

皆様のご意見・ご感想をお寄せください。

熊本大学広報誌 熊大通信

2006年4月発行 編集/熊大通信WG 発行/熊本大学広報室 〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号 TEL:096-342-3119 FAX:096-342-3110 sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp



Kumamoto University

熊本大学に新ロゴマークが誕生。

学生が学びたい大学、そして産業界や地域社会が連携したい大学を目指す中、これまで以上に、社会との活発なコミュニケーションの機会が求められています。

そこで、校章として用いられている銀杏のエムブレムに加え、

「対外的・対内的コミュニケーションの活発化」を目的とした

新しいロゴマークを制作いたしました。

くまもとの「く」を象っていると同時に、

Kumamotoの「K」を変化させ、さらに前進していく矢印をイメージし、

校旗を彩る紫紺とうこんで彩色したデザインです。

伝統を尊重しながら、躍進を続ける熊本大学を象徴しています。

今後、この新ロゴマークを中心に本学のビジュアルデザインを一新し、

新たな熊本大学ブランドの確立を目指していきます。

国立大学法人 熊本大学

<http://www.kumamoto-u.ac.jp>